

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200036
法人名	有限会社 稲満会
事業所名	グループホーム うらら
所在地	鹿児島県霧島市国分下井2988番地 (電話0995-46-1778)
自己評価作成日	平成25年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・国道より少し海岸側に入った田園地帯に立地しており、部屋によっては窓から桜島を望むことができる。周囲は季節の移り変わりを感じやすい場所で、徒歩圏内は海岸があり、散歩をするには恵まれた環境である。

・代表者が「ここではうらかに過ごしてほしい」という思いから「うらら」と名付けているため、スタッフ一同自宅と同じようにできるだけゆったりと笑顔で過ごしていただけるように取り組んでいる。

・医療面では運営母体がなく独立型であるため、協力医療機関に緊急時の対応を依頼している。また、管理者をはじめ医療連携担当の看護師・介護スタッフの中の看護師の有資格者を中心に、全スタッフで協力しながら健康管理を行っている。

・食事面では社内に管理栄養士が在籍しており、施設長とともに季節やイベント事などを考慮したメニューを考えるなど栄養管理を行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年3月27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、同一法人が運営するデイサービスが併設されている。周辺には田園が広がり、スポーツグラウンドやバス停・郵便局・食堂等があり、利便性に富んでいる。

・利用者は、地域の一員として地域行事に会場提供や参加する等、親しく交流を深めている。

・災害対策として定期的に避難訓練を実施し、安全対策の設備も整備されている。また、災害に対して避難訓練や緊急時の対応について、地域住民との協力体制もできている。

・利用者が、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を支援している。また、家族の面会も多く、運営推進会議への出席も協力的である。

・管理者は、職員が働きやすい環境づくりに配慮し、職員の意見や要望を聞いて対応している。また、職員はケア対応等のさらなる向上を目指して研鑽している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために、目につく場所（玄関・ホール）に貼り出している。管理者を始めスタッフ一同、努力はしているが、理念の実践についてはなかなか思うようにいかなかったり、おろそかになってしまったりすることもある。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関やホールに掲示し、毎日確認し合い、具体的なケアについて意思の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、昨年度は自治会長を務めた。自治会の行事（花見や総会など）に場所を提供することもある。運営推進会議には地域から公民館長・自治会長・老人クラブ会長・民生委員・消防団員に出席していただいている。先日は初午祭の馬踊りの来訪があり、近隣の方を招いた。	ホームは、自治会に加入し、役員を引き受けたり、地域の行事に場を提供したり、中学生の体験学習やボランティアを受け入れるなど、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	何かイベントがある際は回覧板等で周知している。また、運営推進会議の際に地域代表の方にお話することもある。学生の実習受入れの際は初日に認知症について簡単に説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、偶数月開催。活動報告や事故の発生状況・入退居状況・スタッフの人事などの報告、質疑応答などを行っている。また、会議の中で地域の方を始めとする外部の方に意見を求めるなどしている。今年度より市の意見を取り入れ、会議ごとにテーマを決めている。</p>	<p>会議は定期的に開催し、利用者や家族その他多くの参加者がある。外部評価の報告や事業所の状況を報告し、出会者からは活発な意見交換が行われ、会議の内容は、ミーティングで職員に報告し、利用者のケア等に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>主に運営推進会議の際に意見を求めるなどしているが、疑問に思うことがあったりすると、その都度電話で問い合わせるなどしている。市の催し物がある時には参加するなどしている。</p>	<p>市担当者とは、市の窓口へ行ったり、電話で連絡を取り、利用者のプランの見直しの相談や情報を交換し、アドバイスを受けている。市主催の研修などにも、積極的に参加し、日頃から連携を取り合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>社内でガイドラインを定め、皆でアイデアを出し合っている。今まで具体的な身体拘束の例はないが、厳密に言うと拘束と取れる言動（スピーチロック）などが出ていることもある。外傷や事故の恐れがある場合はリスクマネージメント（安全対策）とセットで考えている。センサーを導入するなど環境整備に取り組んでいる。</p>	<p>年1回、マニュアルを基本に勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組み、職員の共有認識を図っている。昼間の玄関は見守りに努め、施錠はしていない。事故防止のための身体拘束については、家族に説明し同意書を得られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、ホールの壁にも掲示している。資料などで高齢者虐待について紹介はしている。またスタッフ各自、自分の言葉使いが虐待につながらないように努めてはいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>昨年度は事業所内で資料を作成して学ぶ機会を設けたが、このような制度があるとぼんやりと分かったという程度。スタッフの入れ替わりもあったので、来年度は何らかの形で勉強する機会を考えたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>初回契約時は、契約の際に分からないことを聞けるように、前もって契約書等の書類をお渡しして、目を通していただくようお願いしている。また、改定の際は全体に関わることなどは文書でお知らせして、その後改めて個別で直接説明をするようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。また、家族会を年2回開催し、ご家族のみで話し合う機会を設け、会長を通じて意見や要望を受けている。その他、運営推進会議に交代で家族代表として参加していただき、意見を述べる機会を設けている。	利用者からは日頃から、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族からは、面会や訪問時の折に、個別の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の顔写真と名前の掲示などの要望があり、即実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	人がいるところでは言いにくいこともあるので、個別に声かけして意見や要望は聞いている。意見や要望があった場合は状況が許せば可能な限り意見を取り入れるように努めている。代表者の判断を要する場合は、代表者に報告し、判断を仰いでいる。	施設長や管理者は、スタッフ会議等において意見や提案を聞く機会を設けている。また、個々に時間を作って思いを聞き、ミーティングで話し合っている。それらを利用者のケアやホームの運営の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与・賞与に関してはできる範囲内でスタッフに還元できるように努めているとのこと。勤務や休暇の希望、有給休暇の取得に関しては、業務に支障がない限り、気持ちよく働けるように、できるだけ希望に添うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>始良・伊佐地区グループホーム（以下GH）協議会の開催する研修に参加したりしている。また、人員などの条件が合えば、外部研修への参加を勧めている。社内研修の開催については難しい面もあり、資料を作って完成したら目を通してもらうなどしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良・伊佐地区GH協議会が研修等開催して下さった場合はできるだけ現場スタッフで参加するようにしている。スタッフも他事業所の現状を知ることによって、自施設を見直すよい機会となっている様子。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>少しでも入居の際の不安を軽減するために、距離的に可能な限り、入居前には必ずご本人の元に訪問して、顔を知ってもらう機会・話を伺う機会を設けている。また、スタッフも入居直後はできるだけ早く馴染むことができるように手厚く接するように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に最低1回は施設を見ていただいている。また、契約前に書類をお渡しして契約書等に目を通す機会を設け、考える時間を作ることで、疑問点や希望・要望等を改めて確認できるようにしている。入所後はスタッフも面会時に積極的に情報交換をするように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居問い合わせや初回面談の際に、GHの内容を説明し、ご本人の状況を確認した上で他のサービスがよいのではと思われる時には、(積極的なリハビリを希望している場合は老健を勧めたりするなど)他のサービスや他事業所を紹介している。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>寝たきりの方には難しい面もあるが、掃除や洗濯物干し等を一緒にしたり、お椀やお盆拭きを依頼し、スタッフと利用者が分担して作業をするなど、お互いに信頼して家事をしている。スタッフもお客様というより家族の一員として接するようにしている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時はスタッフが必ず声をかけるようにしていると同時に、お茶を出して自室で家族だけの時間をゆっくりと過ごせるように配慮している。また、施設長にて日頃の生活の様子を報告している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族の了解があれば、馴染みの方の面会も受け入れている。また、外出泊等で自宅に帰る機会を設けることも積極的に奨励している。併設のデイサービス（以下DS）を利用していた方やDSに友人が来ている場合は、日中DSで過ごしていただくこともある。</p>	<p>入居時のアセスメントや家族からの情報を聞いたり、日々の会話の中から、馴染みの人や場所を把握している。馴染みの友人や知人の訪問の際には、居室を開放してお茶を出したり、行きつけの理美容院などへ出かけたリ、家族の協力を得て、帰宅や墓参の支援を行い、関係継続の支援をしている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流が苦手な方や言葉が荒い方については、スタッフが間に入り、孤立しないように配慮している。また、リビングにあるソファを活用して、利用者だけで話をしやすい雰囲気を作ったり、スタッフが話のきっかけを作ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主な取り組みとしては、年賀状など文書でのやりとりを継続している。また、相談があった場合は相談を受けるように努めている。ご本人の退居後も、踊りのボランティアでホームに来所されるご家族の方もいらっしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面と向かっては表現されない方もいらっしゃるので、日常会話等からも本人の意向を汲むようにしている。職員に話さなくてもご家族に話すこともあり、ご家族から情報を得ることもある。それでも困難な場合は表情や言動などから汲むように心がけている。	アセスメント時に本人や家族・関係者から情報を聞き、日々の関わりの中で、笑顔の出る瞬間等を記録し、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、家族からの情報や職員間で話し合い、本人中心に支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・担当ケアマネ（または施設・病院の担当者）等から話を聞き、情報をスタッフ間で共有することで本人らしい生活が維持できるように支援し、スムーズにGHでの生活に移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人やご家族・担当ケアマネ（入院・入所している場合は担当のスタッフ）などから話を聞き、状態の把握に努めている。入居後はこまめに記録することでスタッフ全員が現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認するとともに、スタッフに日常の様子や留意点などを確認して計画を作成している。モニタリングに関しては経過記録を参照したりスタッフから情報収集したりすることで定期的実施し、必要時は計画の内容を変更している。	本人や家族・関係者から意向を聞き、担当者が介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人の希望するプランとなるよう職員全体でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の様子などの経過を記録するようにしている。記録用紙はそれぞれ個人別にファイルで綴じており、ファイルを見ればその方の経過が誰でも分かるようにしている。介護計画の見直しや作成にも有効的に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族の都合が合わない場合は受診にお連れしたり、入退院時の送迎をしたりしている。ご本人・ご家族だけの受診が不安な場合は付き添いもしている。また、併設のDSに知人が来ている場合にはDSで過ごしていただいたりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>中学校の職場体験学習や専門学校の現場実習を積極的に受け入れている。一緒に家事やレクレーションをしたり、昔の話をしたりして利用者の潜在能力を生かしていただいている。また、地元の消防団の協力を得て合同で消防訓練をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的にかかりつけ医に継続して診ていただいている。受診が困難な方や希望があった方については協力医療機関の往診を受けることができるようにしている。協力医療機関には急変時にもすぐ対応していただけるようお願いしている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。2週間に1回、協力医療機関からの定期検診がある。受診には必要に応じて職員が付き添って支援し、家族と情報のやり取りをしている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関に対して窓口担当となる看護師と介護スタッフが情報交換を密に行い、適切な受診や看護を受けられるように努めている。介護スタッフにも看護師の有資格者が複数名おり、窓口担当の看護師をフォローするなど協力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関に対しての窓口（施設長・看護師）を決めており、窓口担当が主に病院関係者とやりとりを行うようにしている。情報提供書などを活用し、スムーズに連携を図ることができるように努めているが、時折医療機関との情報交換がうまくいかないこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の段階で意向を確認しているが、現実的な問題となった時点で改めて意向を確認しており、ご本人やご家族が望む場所で生活できるように支援している。ホーム内で亡くなっていたというケースはあるが、現段階でホームとして看取り介護の経験はない（対応できるようにしている）。</p>	<p>重度化や終末期の指針や方針については、入所時に説明し、同意書を得ている。また、状況に応じ、繰り返し話し合い、意思を確認している。職員全員が、その方針を共通認識している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1回は消防訓練時に消防局から心肺蘇生・応急手当・AED講習等の指導を受けている。実践に不安があるという声もある。回数を重ね、少しでも慣れて、有事に落ち着いて対処できるように取り組んでいきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練をおよそ年に2回実施している（内1回は夜間を想定して）。また運営推進会議にて地域の方を交えて災害対策について検討している。その他、地元の消防団と連携を図り、避難場所のアドバイスをもらったり、合同での訓練を実施したりするなど、協力体制を得られている。	年2回消防署の指導のもと、昼夜間想定避難訓練を実施している。火災・水害・地震等の対策マニュアルを作成している。地域住民との協力体制もできている。防災関連の設備も整備され、災害に備えた、水や食料等の備蓄も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、認知症ケアの心得とともにホールの壁などに掲示している。プライバシーについては医療機関への情報提供や社内紙における写真掲載等の同意は得ている。時折言葉使いが乱れることがあるので、各人が気をつける必要がある。	日々の関わりの中で、利用者の尊厳とプライバシーを重視したケアや言葉かけに配慮している。「認知症ケアの心得」をホールに掲示し、排泄や入浴・着替え等には、特に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞いたり、選択肢を示してその中から選択していただいたり、自己決定できるように努めてはいる。安全や健康状態を考慮した場合や、認知機能の低下が著明な方が明らかに妥当でない判断をされる時はスタッフ主導で決定せざるを得ないこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況が許すならできるだけ希望に応じるように努めているが、重介護者や目が無断離所や歩行が不安定で目が離せない方が増えたため、時と場合によっては希望に添えないことも多い。スタッフの都合に合わせていただいていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分で服を選べる方に関しては、着たい服を選んでいただいている。自分で選べない方に関しては、スタッフで選んで、それでいいか別の服がいいか確認している。女性に関してはイベントがある時などにスタッフの協力を得てお化粧品をすることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前に比べると少なくなったが、下ごしらえや盛り付け・食器洗いなどは手伝っていただいている。下膳はなるべく手伝っていただいている。食事中は利用者の方とスタッフと同じテーブルで話をしながら一緒に食べている。	利用者の嗜好に配慮した献立を作ったり、準備や後片づけを職員と一緒にしたりしている。誕生会や行事食や海岸に弁当を持って出かけたり、外食に行ったりして、食事が楽しみになるよう工夫している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>制限がない方は1日1300ccの水分摂取を目標にしている。無理強いをせずに、なるべく水分量が確保できるように工夫し、チェック表で摂取量を把握している。栄養バランス等については施設長・管理栄養士を中心に考えられている。食事形態も各人にあわせている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>朝・昼食後は任意である（寝たきりの方は毎回している）。介助が必要な場合は利用者の状態に応じて介助している。特に夕食後・就寝前は必ずスタッフでチェックし、義歯の方はお預かりしている。週1回は義歯洗浄剤を使用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を活用し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、自然な排泄ができるように取り組んでいる。夜間については排泄を気にするより、ゆっくり眠っていただくことを優先しているが、ポータブルトイレなどを活用してできるだけおむつに頼らないように努めている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、排泄チェック表で、日々の体調を見ながら、自尊心に配慮し声かけをしている。トイレでの排泄を大切にして、オムツからリハビリパンツになった利用者もいる。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳と乳酸菌飲料を提供すると同時に、水分摂取量が確保できるように取り組んでいる。また、排泄チェック表にて排便パターンの把握に努めている。それでも難しい場合は下剤などを使用している。運動量については何かしら工夫が必要。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日おきに入浴できるようにはしている。希望時は状況が許せば入れるようにしており、入りたくない場合はあまり無理強いはいしない。時間帯についてはいつでもというわけにはいかないが、スタッフの人員が確保できている時間帯ならなるべく希望に添うようにしている。	隔日の入浴であるが、本人が希望すれば毎日でも入浴ができる。併設のデイサービスのかけ流しの温泉に出かけたりして、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯とはしているが、本人が休みたい時に休んでいただいている。起床時間に関しても、熟睡している場合は基本的に自然に覚醒するまで様子を見ている。また、室温調整をするなど、安眠できるようにスタッフで配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳にそれぞれ薬の説明書を綴っており、目を通せるようにしている。また、内服の追加や変更などがあった場合は、看護師より口頭・申し送りノートなどでスタッフに周知している。また、施設長にて少しでも薬の量が減らせるように主治医に相談しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の方の状態に合わせて、ホールの床掃除（シートがけ）、お椀・お盆拭き、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみ等を依頼し、それぞれの役割として家事の手伝いをしていただいている。レクリエーションがマンネリ化しているので楽しみごとに対しての支援を工夫していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりのその時の気分に応じて、玄関先で外気に触れる機会は作っているが、外出の支援をするのは現実的に難しい状況。スタッフの人員配置に余裕がある場合は近隣を散歩したり、ドライブなどしている。イベントとして外食の機会も設けているが、日常的な外出の頻度を増やせるように工夫したい。	日常的には、個々の習慣や楽しみごとに合わせて、近隣の散歩を行っている。体験学習の中学生や看護学生のボランティアと一緒に散歩を楽しむこともある。外食に出かけたり、ドライブするなど、戸外に出かけられるよう支援している。家族の協力で墓参も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブル防止のため基本的に金銭は事務所預かりとしている。手元に持っていないと落ち着かないという方に関しては紛失しても責任を問わないという条件で小遣い程度のお金を所持を了承している。ただし、買物等で外出した時は所持金で欲しい物を購入できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>最近はありませんが、ご本人が希望される時には電話ができるように支援している。中には県外の友人に文通のような形ではがきや手紙でやりとりをしている方もいらっしゃる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節に合わせた花や置物などを飾り、ホールには貼り絵（皆で取り組んでいる）を飾ることで季節感を味わえるように努めている。また、落ち着いて過ごせるように大幅な模様替えをしないように心がけている。トイレなどの照明が自動であるため、そのことで不穏になる方もいらっしゃるが、その都度説明している。</p>	<p>共用空間は、天井が高く開放感がある。空気清浄機を設置し、室内環境に気をつけている。季節に合わせて花や飾り付けをしている。ソファが置いてあり、ゆっくりと談笑できるスペースがある。トイレは2人介助ができるように広く使いやすく、居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールに置いているソファに座って仲の良い方同士で談笑したり、畳のベンチで2～3名で会話しながら洗濯物たたみをしていただいたりしている。ソファはテーブルの斜め後方に置いており、他者と距離を置きたい時・一人になりたい時などにも利用している。中にはそれぞれの居室で談笑される方もいらっしゃる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた物を持ちこむように働きかけているが、家具に関してはプラスチック製の収納ケースなどを持ち込まれる方が多い。過去には鏡台やキーボード、家族の写真や遺影を持ち込んでいる方もいらした。スタッフとしては家族の写真を飾るなどして工夫している。</p>	<p>居室は、クーラーやベット・机・棚が設置されている。利用者の好みの品物や家族の思いが伝わる物が持ち込まれ、その人らしい居心地のよい工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物自体はバリアフリー構造。その方に合わせてベッド柵や介助バー、コールマット及びワイヤレスチャイムを利用したり、トイレの扉に貼り紙をしたりして、その方の残存能力が最大限活かせるように、かつ安全に過ごせるようにスタッフで検討して環境を整えている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない